

川島廃寺跡



遺跡のある場所周辺は、古代の瓦が散布することが以前から知られていた。瓦の散布状況や、土壌の掘削時の土層観察に基づき、西辺が伊予街道に接する約10,000㎡の区画を地域の伝承にある「大日寺」と呼ばれる古代寺院の跡とする見解が、郷土史研究者らにより提示されていた。

吉野川市教育委員会が実施した2012（平成24）年度から2015（平成27）年度までの発掘調査では、建物跡の遺構が確認されている。遺構は、寺院の中心的建物である金堂の一角と推定され、今後この地点を起点として調査を進めることによって、伽藍配置の特定につながる事が期待されている。伽藍配置は寺院の年代や機能を特定する上で基礎的な概念であり、寺院が国家の知識や技術が集まる場であった古代の歴史を知る上では極めて重要な遺跡といえる。また、調査では瓦や螺髪といった古代寺院に特徴的なものが多く出土している。なかでも、鬼面文瓦は徳島県内の出土資料のなかでは最も良好な状態の資料といえる。さらに、螺髪（らうぱつ）の出土は県内では初例であり、一連の調査による出土総数は51点に及ぶ。出土遺物から、創建年代は7世紀末まで遡る可能性がある。

とびがす 鳶ヶ巣古墳群

か-2



古墳群を構成する古墳は、石材に緑泥片岩を使用している。規模や構造は古墳により異なっている。最も良好な状態を残す1号墳の規模は、玄室入口の幅約60cm、高さ約90cmで、玄室内の広さは幅約140cm、奥行約330cm、高さ約160cmである。墳形は円墳、石室構造は横穴式で、天井はアーチ形である。1～2号墳は海拔250m、3～5号墳は海拔170m附近に位置する。北面は吉野川を望む。出土遺物は不明。

みねはち 峯八古墳群

か-2



古墳群を構成する古墳は、石材に緑泥片岩を使用している。規模や構造は、崩壊が著しいために不明であるが、鳶ヶ巣古墳群と同規模の古墳によって構成されていたと推定されている。

古墳群は海拔130～180mの附近に築かれ、北面には善入寺島を俯瞰できる位置にある。出土遺物は不明。

岩の鼻と川島廃寺の礎石 き-2



岩の鼻は、吉野川に大きく張り出した丘で、緑泥片岩（阿波の青石）の堅い岩盤でできている。岩の鼻展望台に立つと、その視界は阿波の北方のシンボルである吉野川が一望でき、西抑えとして川島城が築城されたのがよく分かる絶景スポットである。川島城本丸跡の石壁に積み込まれている心礎石は、川島廃寺（大日寺）の塔の心礎石であると伝えられている。



いがかみかたみ 工藤伊賀守形見碑 お-2



『麻植郡誌』（麻植郡教育会1922）によると、工藤伊賀守とみられる人物像の上部および左右には「□阿弼□□住人工藤伊賀守 六十四歳 自然なる石をわかみと定置無是石有（画像）死しての後の形みともあれ干時慶長四（1599）年己亥九月十五日辛日敬白」という文字が刻まれているというが、現在は表面の摩滅が著しく、判読は困難である。



川島町・美郷東部文化財 MAP

TOKUSHIMA

吉野川市

上桜城跡

き-2



吉野川市川島町と美郷の境界となる山塊から北に延びた標高142mの尾根筋に位置する。北面は吉野川中流域の平野部を見下ろし、四国三郎と称される吉野川をはさんで対岸には阿讃山脈を望む。東面は吉野川の河口付近までを俯瞰できる。城跡は、本丸と西の丸という2つの不定形の曲輪から成る。本丸は、北面に水運路である吉野川と陸運路である伊予街道を一度に見渡すことができる眺望である。本丸が築かれた後に西の丸が築かれたものと考えられている。築城年代は不明であるが、戦国時代には篠原長房（?～1573）の居城であった。長房は阿波国の戦国大名であった三好長慶（1522～1564）の弟である実休（1527～1562）に仕え、実休の死後にも三好家家臣団の中心となって活躍した。

しかし、長房の台頭をおそれてか、守護細川真之と主君三好長治が1573（あるいは1570）年に上桜城に攻め込み、長房を討った。

村田旅館本館・村田旅館蔵

か-3



美郷から川島町へ通じる道沿いに位置する、村田旅館の本館と蔵である。本館は1930（昭和5）年に建築された旅館兼店舗である。桁行8.9m、梁行5.9mの木造2階建てで、屋根構造は入母屋造葺瓦葺である。1階に店舗、2階に旅館の座敷を設けている。座敷は北端に床の間と押入付きの8畳、中廊下を挟んで6畳の2部屋があり、保存状態が良好であると評価されている。村田家は旅館とともに昭和時代前期には呉服商、昭和30年代（1954～1964）からは食料品店を営んでいたという。敷地に高低差があるため、1階の道路に面した入口以外に、2階に玄関があり、ここからも直接出入りできる構造となっている。蔵は本館の奥にあり、1916（大正5）年に建築された土蔵である。桁行5.7m、梁行4.3mの2階建てで、屋根構造は現在葺瓦葺であるが、もとは本瓦葺であったという。

文化財マップ（PDFデータ）は
こちらから



発行・編集 麻植史談会 代表 TEL.090-2783-4505 協賛 吉野川市商工会 無断転載禁止 2023.11